



金婚

結婚50周年

ゆめいっぱいあります

結婚50年を迎えられた皆さん、金婚おめでとうございます。第53回金婚夫婦祝福式典が9月1日、新口イ্যালホテル四十万で行われました(高知新聞社・RKC高知放送などが主催)。今年は、昭和35年に結婚されたご夫婦が金婚式を迎えます。

黒潮町からも25組の方々が式典に出席しました。

50年という長い年月を、苦楽を共に歩み、意義のある記念日を迎えられた皆さんの表情は、とても豊かで心健やかな様子でした。これからも末永く仲むつまじく、ますますお元気でいてください。



岡本 茂さん・満智子さん
(入野)



兼松 仁さん・芳枝さん
(下田の口)



金子 良喜さん・節子さん
(蜷川)



宮地 秀行さん・利代さん
(入野)



廣井 實さん・恵子さん
(入野)



佐野 光延さん・瑤子さん
(入野)



金子 實さん・和世さん
(蜷川)



鶴島 千代一さん・静さん
(佐賀)



森田 幸男さん・加代子さん
(鈴)



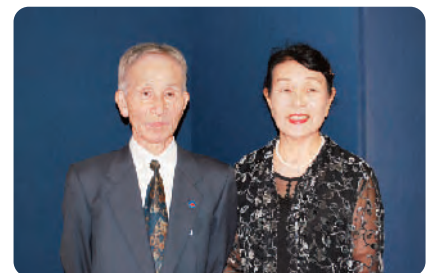
橋田 昭俊さん・和子さん
(蜷川)



松田 智己さん・玲子さん
(入野)



濱町 成章さん・吉子さん
(佐賀)



中野 結さん・牧子さん
(入野)



山下 ^{しげとし やすこ}
重利さん・泰子さん
(市野々川)



山本 ^{とめきち ゆきえ}
留吉さん・幸恵さん
(佐賀)



濱町 ^{としあき こ}
壽章さん・テツ子さん
(佐賀)



堀 ^{よらいち たまこ}
要市さん・玉子さん
(入野)



濱岡 ^{よしろう かずみ}
與四郎さん・和美さん
(佐賀)



今西 ^{かつよし みちこ}
一義さん・道子さん
(中ノ川)



澳本 ^{ただし いほこ}
正さん・五百子さん
(有井川)



松山 ^{えい よしか}
永さん・芳香さん
(伊田)



北原 ^{かずひろ すえこ}
一弘さん・末子さん
(浮鞭)



尾崎 ^{いさお きょうこ}
功さん・郷女さん
(入野)



柿内 ^{けい ふさこ}
啓さん・總子さん
(入野)



秋田 ^{たく ふき}
拓さん・芙貴さん
(加持)

◆物価
ハイライト一箱70円・学校の先生の初任給1万円・17インチカラーテレビ42万円・コーヒー一杯60円・日本酒(1級)一升835円

◆流行歌
月影のナポリ(森山加代子)・潮来笠(橋幸夫)・アカシアの雨が止む時(西田佐知子)・あいっ(旗照夫)・さすらい(小林旭)・ダイアナ(山本敬二郎)・一本刀土俵入り(三波春夫)・恋の片道切符(平尾昌晃)・霧笛が俺を呼んでいる(赤木圭三郎)など

◆12月
俳優の石原裕次郎と北原三枝が結婚・第二次池田内閣成立、国民所得倍増計画決定

◆11月
ジヨンFケネディが第35代米国大統領に当選

◆9月
本放送を開始
日本でカラーテレビ

◆6月
初のロングサイズのたばこ「ハイライト」発売

◆5月
太平洋岸にチリ地震による津波来襲

◆4月
ダッコちゃん発売

◆1月
新日米安全保障条約がワシントンで調印

◆昭和35年(1960年)はこんな年でした

長寿のお祝い

敬老の日を前に、町内で今年100歳を迎える方と100歳以上の方(明治44年3月31日までに出生した方)に対し、黒潮町長と社会福祉協議会会長から長寿のお祝いと表彰が行われました。皆さん、これからもお元気で過ごしてください。

祝100歳



しげお
植田 繁尾さん
(加持)

101歳



いちの
橋田 市野さん
(蜷川)

103歳



さなえ
濱崎 佐奈恵さん
(上川口)

101歳



みどり
小谷 緑さん
(川奥)

100歳



よしお
田辺 芳尾さん
(加持川)

101歳



ちよこ
野並 千代子さん
(上田の口)

101歳



あやこ
佐藤 綾子さん
(上川口)

祝100歳



かんこ
井上 関子さん
(入野)

102歳



かめよ
川村 亀代さん
(馬荷)

103歳

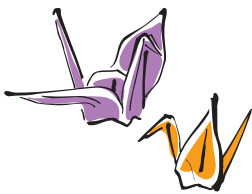


せつお
國見 節尾さん
(浮鞭)

102歳



あきこ
三城 秋子さん
(伊田)



一畳ほどもある和紙のよう
な素材「不織布」を机に渡し、
おもりで固定。下書きに沿っ
て水性ペンキで色を付けてい
きます。筆を乗せると、不織
布がずれたり揺れたりできな
り苦戦している様子。それ
も部員たちは、「小さい子が
喜ぶように工夫した」と、固
定概念にとらわれない自由な
発想で、大小合わせて22匹の
鯉のぼりを仕上げました。講
師を務めた坂折地区の大谷区
長は、「アイディアに溢れて
いる。子どもたちが喜ぶね」
と感心しきりでした。



できあがった鯉のぼりは、来年5
月に行われる「カツオと鯉のぼり
川渡しフェスティバル」で訪れた
子どもたちに無料配布されます。

大方高校美術部 感性キラリ
大方高校の美術部が8月17
日から18日にかけて、「であいの
里蜷川」で夏合宿をしまし
た。部員8人と担当の教員2
人が泊まりこみでの制作活動。
課題は「紙の鯉のぼり」づく
りです。



北郷地域の手作り納涼祭
今年で4回目となる、北郷
地域の納涼祭が8月22日、休
校となっている北郷小学校グ
ラウンドで行われました。
若者の減少で行事がなくな
った地域を思う住民有志らが、
「高齢の方でも歩いて来られ
るお祭りを」と発案したもの
で、寄付金を集め、法被やう
ちわも手作りし、準備を進め
てきました。会場では地元で
採れた野菜や手作りお菓子な
どが売られ、うちわを持った
家族連れらでにぎわいました。
盆踊りが始まると、地域内
外から訪れた方々がつぎつぎ
と踊りに加わり、やぐらの周
りには大きな輪が。「こんな
に若い人がおるとはね」と地
元住民も驚くほど。また、祭
りの最後には花火も打ち上げ
られ、ささやかながらも思い
のこもったイベントを楽しみ
ました。

**カツオの郷で滞在型観光のメニューづくり
くふるさとインターンシップ
生が佐賀地域で職業体験を
しました**

【インターンシップとは】

一般的には、主に大学生が企業に一定期間就労することにより、将来の職業に関連した職業体験(研修)を行うことです。

今回のインターンシップは、地域に滞在しながら地域の人々と共に地場産業や地域づくり活動に取り組み、地域貢献を通して学び成長することを目的とした『くふるさとインターンシップ』と呼ばれるもので、「NPO法人人と地域の研究所」が企画しました。

体験を通しての到達目標は、「カツオ一本釣り漁が有名な佐賀地域で観光・産業の現場に入って汗を流し、海辺のまちの滞在型観光メニューを発掘すること」。インターン生たちは漁家民宿に宿泊しながら黒潮一番館を拠点に、カツオのタタキづくりや天日塩製造などの仕事を体験しました。

【くふるさとインターンシップ生の活動】

8月19日午前9時半、黒潮

一番館の厨房では、インターン生の井上かな美さんと藤原育菜さんが、カツオのタタキづくり体験の受け入れ準備に追われていました。2人とも大学1年生で、井上さんは高知工科大学、藤原さんは東京農業大学に通っており、夏休みを利用しての参加です。

黒潮一番館での主な仕事は、タタキづくり体験のサポートから会場の準備、食器洗いまで、従業員と同じ仕事をひととおり行います。時には重たいバケツを運ぶなど、力仕事もこなしました。



「大変ですけど楽しいですよ」。訪れたお客さんに積極的に話しかける姿が印象的でした。



インターン生の井上かな美さん(上)と藤原育菜さん(下)



少し落ち着いた頃、まかないを10分ほどでかき込み次の仕事へ。「いらっしやいませ〜」。

また、天日塩の製造販売をしている「ソルティープ」では、塩づくりのガイド役を勤めました。この日は製造過程にできる「浴用塩」の効用について説明していました。

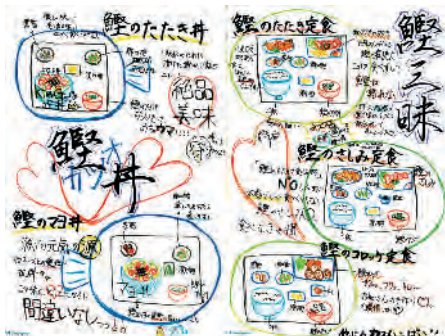


「浴用塩はにがりの下に溜まったもので、手や顔を洗うとスベスベになります」。

他にも漁家民宿での接客業を通じ、女将さんから「おもてなしの心」を教わり、盆踊りや懇親会にも参加するなど、約1週間、地域の人や文化に触れました。

【インターンシップを終えて】
最終日、体験を終えたインターン生に感想を聞いてみました。

「働くことは大変だけど、いい人たちに会えて楽しかった。また来ます(井上さん)」、「こういうきっかけがないと知り合えない人たちに出会えた。高知のいいところを再発見できた(藤原さん)」と、満足そうに話してくれました。そして、「お世話になっただけで、何かお礼をしたかった」と言ってみせてくれたのは、完成したばかりの手作りメニュー表。昨夜、宿泊先で知恵を出し合いながら作った、2人の協同作品とのことです。



2人が作ったメニュー表

今回の受け入れ側の代表者であり、平成11年に「カツオ

のタタキ探検隊」を結成し、以来、カツオを活かした観光に力を入れてきた明神多紀子さんが、この事業に携わったきっかけを話してくれました。「自分たちが普段取り組んでいることを外部からの視点で見ること、いいところや課題点を教えてくれるのではないかな。学生という若い方の見方、感じ方に期待していました」。この事業は体験する側だけでなく、受け入れる側にもメリットがあります。年代や生活環境を超えた交流をすることで、それぞれが発見があり、それぞれが学び成長することができそうです。

今後、インターン生たちはこの体験を持ち帰り、「滞在型観光メニュー」という形でレポートをまとめる予定です。そしてそれは、明神さんらがこれまで10年間取り組んできた「もう一步ステップアップしたい」と望む観光メニューに、何らかのヒントを与えてくれるはず。私たちに思いつかないことがたくさんあった。メニュー表を見つめる明神さんは、もうすでに何かを感じ取っているように見えました。